

Desert Wind

Vol. 46, September 2010

■LVJCC 牧師: 鶴田健次

■■ 神の国の割り算 ■■

神の国には、この世とは違う計算方式があります。たとえば、私たちが経験する“悲しみ”や“喜び”は、神の国の割り算の公式を用いると、「悲しみを二つに割れば半分に減り、喜びを二つに割れば二倍に増える」ということとなります。割り算は、何をどのように割るかによって、その結果も変わります。

聖書の神は素晴らしい神です。ご自身の御子をさえも惜しまずに私たちの罪のために死に渡された神は、神の国の割り算を用いて、私たちにとって益となるものは増やし、無益なものは減らそうとして下さるのです。

1) 神が分離されたもの

神は、天地創造の時から今日に至るまで、様々なものを分離して来られました。それは神に属するものと属さないものとの分離であり、また神の創造の御業と秩序を示すための分離でした。

まず天地創造の際になされた分離ですが、創世記 1 章 4 節は光とやみとの分離です。また 6-7 節は大空の下の水と上の水との分離です。さらに 14 節は、昼と夜との分離です。

次に、ノアの時代には、神は洪水を用いて全世界の人々をさばき、彼ら自身の選択を用いて、さばかれる者と救われる者とを分離されました。アブラハムの時代には、神はアブラハムをカルデア人の中から分離し、彼と彼の子孫を神の聖なる民とされました。モーセの時代にも、神は何度も神に属するものと、そうでないものとを分離されました。

それから新約時代に入っても、神は様々な分離をなさいました。信じる者と信じない者との分離。また教会にいる人を、羊と山羊に分け、右と左に分け、賢い娘たちと愚かな娘たちに分け、最後には天国と地獄との分離です。

このように神は、天地創造のとき以来、この世の終わりに至るまで、神に属する者と世に属する者を分離させながら、救いの計画を実現して来られたのです。

2) 分離できないもの

この世には神が定められた分離の法則があり、あるものは分離できません。たとえば、どんな数字も、どこまでも割ることが出来ませんが、ゼロは割ることができません。そのように、あるものは分離できないという基本原則があります。

まず、分離できない一つのは、神が結び合わせた夫婦です。神は、結婚の神聖な法則を立て、一夫一妻主義、一心同体思想を明らかにされました。そして、この神聖な夫婦の関係は、霊的な意味では、キリストと教会の関係を表します。ですから、この関係は絶対に分離できないのです。

次に、分離できないものはキリストの体である教会です。パウロはコリント教会の分派の問題を厳しく戒め、またエペソ書では、教会全体が一致の心を持つよう求めました。

さらに分離できないものは心です。つまり、神様に仕える心と、この世に仕える心と同時に分離して持つことはできません(マタイ 6:24)。また疑いの心を持つ祈り、二心を持った祈りは聞かれませんが(ヤコブ 1:5-8)。あるいは、同じ口から賛美と呪いの言葉を使うべきではありません(ヤコブ 3:8-12)。

3) 私たちから分離されるべきもの

この世の数学では、持っているものを与えればなくなります。神の国の数学では、持っているものを与えればさらに豊かになります。まず私たちが分け与えるべきものは、キリストにある救いの福音です。福音宣教の働きは分け与えなければならぬクリスチャンの義務です。福音は分け与えても減らないばかりか、与えれば与えるほど豊かにされます。福音を分け与えなければ、間接的殺人になるとさえ聖書は教えています(エゼキエル 3:17-19)。

信仰は与えれば成長します。希望も人に分け与えれば更に大きな希望に膨らみます。私たちの愛を他人に与えれば、私たちの愛は増し加わります。私たちの喜びを分け与えるなら、喜びが増し加わり、私たちの平安を分け与えるなら、平安が増し加わり、受けた恵みを分け与えるなら、神はその恵みをさらに私たちの内に増し加えて下さるのです。

DREAMS COME TRUE

- ✠ 教会堂の建設
- ✠ 敬老ホームの設立
- ✠ 幼稚園の設立

お祈りのリクエスト

- 日本の家族の救いのために
- 各スモールグループのオイコス伝導のために
- 入門者クラスのために (田中兄、彩沙姉、ミミ姉)
- 英語部の働きのために
- 小さな子供を持つお母さん方のクラスのため
- 堀田兄弟の神学校での学びのために
- 癒しの祈り: 恵理奈ちゃんの網膜芽細胞腫、植木ケン兄の糖尿病、神崎先生の目、倉田一徳さんの脳腫瘍、新井雅之兄の癌、夕紀子姉の緑内障、中村裕二先生の直腸癌、以津子姉、Kahoku さん

Desert Wind では、ご意見・質問等何でも受け付けております。
lvjccdw@hotmail.co.jp
発行: 鶴田健次
編集: 松岡みどり



編集室 便り

ギックリ腰が治ったと思ったら、風邪を引いてしまった。しかし皆さんのお祈りのおかげで、仕事で忙しい期間は元気に働くことができ、やるべき責任を果たせた。だが、一カ月の内にベッドに寝ていたのは何日あったのだろう。その間、先生のメッセージ CD を聞いたり、聖書を読んだり、お祈りをしたり、千羽鶴を折ったり、本を読んだりしながらベッドにいた。でも考えてみれば、ギックリ腰も風邪も時が経てば治るもの。つかの間のベッド生活だ。世の中にはいつ治るとも分らない病の中にいる方々も多い。そんなことを考えると、早くイエス様を伝えなければと思う。それと、しっかり運動管理、栄養管理をし、死ぬ時まで丈夫な体を維持し、お借りした身体を神様にお返ししなければと思う。生きている間にすべきことが本当にたくさんあるものだと思う。

証し ● Harumi Walter

●● 神様と私と仕事 1of 2 ●●

ラスベガス教会の、そしてニュースレターをお読みの皆様、全能の神様の御名を賛美致します。今日は神様がどのように、私の仕事上においても常に共にいて守り、助け導いて下さっているかという事をお伝え出来れば感謝です。

私の仕事はプライベートジェット専用機のフライトアテンダントです。アメリカに来て少しこちらの生活にも慣れてきた頃、神様は不思議なようにこの仕事の道を開いて下さいました。それから10年程同じ仕事をしてきたことになるのですが、その間、近年の不況下において、一旦仕事を失う経験もしました。しかしその事を通じて神様は、私にとってこの仕事が天職の一つである事を再確認させて下さり、また新たに飛び続けられるように、ここラスベガスの地に道を開いて下さいました。

プライベートジェットにお乗りになるお客様は、一般的に会社のオーナーや CEO などの幹部、有名人、大切な顧客など、いわゆる VIP と呼ばれる方々がほとんどです。飛行機はプライベートジェットの専用小型機から、ボーイング社のジャンボ機の中をくりぬき、特別使用にした大型機まで色々あります。一見華やかに見える職業ですが、実際は体力勝負の仕事で、お客様の都合により、スケジュールがぎりぎりまで決まらなかったり、何度も変わったり、行き先も決まったルートがあるわけではないので、その都度たいへん柔軟な対応が求められます。もちろん、万が一の緊急時の安全を守るのが私たちの第一の任務ですが、その中で常に VIP 対応のサービスを求められ、お客様のあらゆる要求に最大限に答えるのが私たちの仕事です。

さて私は今、継続した幾つかの長期フライトの途中ですが、始めのフライトは、アフリカ某国の大統領とそのご一行様でした。例に漏れず、ぎりぎりまでスケジュールが二転三転する中、慌ただしくスーツケースに荷物を詰め、行き先も飛び期間もはっきりわからないまま、アメリカを立ちました。飛行機が駐機してあるロンドンまで飛び、ホテルにチェックインしたその足で、2日後に迫るフライトの準備が始まりました。機内の掃除等を含めるフライトに関するすべての準備も私たちがし、お客様の好みに合わせ食事のメニューを考え、シェフと話し

合いオーダーし、果物、スナック、機内の備品、また最高級のワインなどお客様のリクエストの品も、実際にお店から調達します。今回のゲストは特に某国大統領ということで、いつも増して準備に抜かりがないように、初顔合わせのバックグラウンドの違うクルーが、力を合わせていかなければならない状態でした。

今回のフライト中にもラスベガス教会の方々を始め、多くの方に祈りして頂きました。旅の安全はもちろん、長丁場でのクルーのチームワークとお互いの健康が良好に保たれる事、そして力を合わせて良い仕事ができる事などです。というのもよく、クルー同士がうまく行かなくて大変だったという話を聞いていたからです。今回は大型機で、多いときに8人のフライトアテンダントが搭乗しましたが、それぞれ個性の強い、また出身国も違う私たちでした。しかし、神様はそれらすべての祈りを聞き入れて下さり、フライトの終わりには抱き合っただけを惜しみ合う良い関係に成っていききました。飛行機の事故の殆どは、人的な要因がもたらされて起こると言われています。また時には予期しない事態が起こり、プレッシャー下で長時間働かなくてはならない事もあります。だからこそ、お互いを信頼して励まし合える関係が保てるという事が重要になってきます。聖書には、「悪い言葉を、いっさい口から出してはいけません。ただ、必要なとき、人の徳を養うのに役立つ言葉を話し、聞く人に恵みを与えなさい。エペソ 4:29」また、「私たちはひとりひとり、隣人を喜ばせ、その徳を高め、その人の益になるようにすべきです。ローマ 15:2」とありますが、私も神様の助けによって常にそのように在りたいと願わされるのです。

今回のフライトシリーズでは世界14カ国、20都市間を飛び回った事になります。情勢の安定していない国に行く事もありましたが、その間旅の安全も健康も守られ、クルーと良い関係で働く事ができ、お客様も喜んで帰っていかれました。私達の仕事上では、そう成る事がごく当たり前のよう期待されますが、こうして思い返すときに、神様が常に共にいてあらゆる事から守って下さり、一つ一つの祈りを聞き入れて下さっている事に、改めて心から感謝する他ありません。「恐れてはならない。わたしはあなたと共にいる。驚いてはならない。わたしはあなたの神である。イザヤ 41:10」

(10月号に続く)

